

# 現代の子どもと教師の体育に対する意識調査

岡野 昇\*・山本 俊彦\*

## An Attitude Survey to a Present-day Child and a Teacher's Physical Education

Noboru OKANO and Toshihiko YAMAMOTO

### 要 旨

本稿は、三重県内の子ども（小学4年生以上、中学生、高校生）1,707人と教師（幼稚園、小学校、中学校、高等学校、盲・聾・養護学校）3,368人を対象に、「体育」に対する意識調査を行った結果を整理したものである。

調査の結果、「体育」は、現代の子どもたちと教師たちに、概ね好意的に受け止められている傾向を示した。しかし、子どもと教師の「体育」に対する意識を比較したとき、必ずしも一致していないことが明らかにされた。特に中学校においては、両者の間に認識のズレ（[体育の位置づけ] [体育の目的] [体育の方法]）が広がっていることを示した。

### 1. はじめに

学校教育の教育課程は、学校教育法施行規則により、文部大臣が示す教育課程の基準として定められた学習指導要領に基づきながら個々の学校で編成される。その学習指導要領は、昭和33年より、それまでの「試案」という性格から、文部省「告示」として官報に公示されることにより、法的な拘束力をもつようになった。以降、ほぼ10年サイクルとして改定が重ねられ、今回の「新学習指導要領」で5回の改定を数える。こうした学習指導要領の経緯の中で、小学校6年間、中学校3年間、高等学校3年間の12年間にわたって、必修として位置づけられている教科は、唯一、「体育（体育・保健体育科）」だけである。国民の大部分が12年間にわたって、「体育」を学び続けていることになる。

ところが、このような「体育」に向けて、新聞投書<sup>1)</sup>やエッセイ<sup>2)</sup>、雑誌<sup>3)</sup>などの記事として、たびたび存在意義を問う声があがっている。こう

した声は、いわば「制度の枠組み」として君臨し続ける「体育」に向けて、必修教科として学ぶ意味や価値を見出せないでいるものにとらえることができ、必ずしも「体育」は「学び手」にとって、肯定的に受け止められているとはいえない。

そこで、本研究では、学校学習において「体育」を学び、教えている当事者たち、すなわち子どもと教師を対象に、「体育」の意識調査を試みる。そして、今年度から、「新学習指導要領」が本格実施されたことを機に、「学び・教え手の側」に位置する子どもや教師が、「体育」をどのように受け止め、日々の学びに参加し、展開しているかを探り出し、21世紀の学校における「体育」の存在意義とその問題性を検討するための基礎資料を得ることが本調査の目的である。

### 2. 調査方法

#### 2.1 調査対象と調査方法

調査対象は、三重県内の公立小学校（国立含む）・中学校・高等学校（私立含む）の子ども、及び教師と三重県内の公立幼稚園（国私立含む）教師、

\* 三重大学教育学部保健体育講座

三重県内の公立盲・聾・養護学校教師である。子どもに対しては、地域性の分布を考慮しながら、各校種とも調査対象校を4校ずつ抽出した。また、小学校教師は県内すべての小学校を対象とし（ただし各校1名）、中学校・高等学校は地域性の分布を考慮しながら、それぞれ12校、43校を抽出した。幼稚園、盲・聾・養護学校教師は県内すべての教師を対象にした。

調査方法は、質問紙調査（多肢選択法）である。質問紙の有効回収は、小学生480人配布中519人（108.1%）から、中学生は480人配布中733人（152.7%）から、高校生からは480人配布中455人（94.8%）から得られた。また、小学校教師438人配布中209人（47.7%）から、中学校教師520人配布中375人（72.1%）から、高等学校教師からは540人配布中718人（133.0%）から、幼稚園教師からは1,722人配布中1,399人（81.2%）から、盲・聾・養護学校教師からは780人配布中667人（85.5%）から得られた。

## 2. 2 調査期間

平成13年6月、7月

## 2. 3 調査項目

子ども用の調査項目は、以下の5つの観点から作成した33項目である（資料1・3参照）。

〔体育の位置づけ〕…体育はどのような教科か（10項目）

〔体育の目的〕…体育の目的はどのようなものであるか（11項目）

〔体育の方法〕…体育授業の進められ方・行われ方はどうか（7項目）

〔教師の存在〕…体育の先生は授業中どうしてくれるか（4項目）

〔体育の時間数〕…体育の時間数について、どう思うか（1項目）

教師用の調査項目は、以下の8つの観点から作成した36項目である（資料2・4参照）。

〔体育の位置づけ〕…体育を子どもは、どのようなものと考えていると思うか（6項目）

〔体育の必要性〕…体育は学校（園）教育において、必要だと思うか（1項目）

〔体育の目的〕…体育の目的はどのようなものであるか（11項目）

〔体育の方法〕…体育の進め方・行い方は、どの

ようなものであるか（7項目）

〔学習内容の基準〕…体育の学習内容は、どのような基準で決められていると思うか（3項目）

〔教師の存在〕…体育にかかわる教師は、どのように位置づいていると思うか（4項目）

〔「学び」と「遊び」の関係〕…子どもにとっての「学び」と「遊び」のかかわりについて、どう思うか（3項目）

〔体育の時間数〕…体育の時間数について、どのように考えているか（1項目）

## 3. 調査結果

本稿では、調査の結果を「①子どもの体育に対する意識」「②教師の体育に対する意識」「③子どもと教師の体育に対する意識の比較」「④各校種別に見た体育に対する意識」の4つの観点から整理した。

なお、数値は、「とてもそう思う」と「わりとそう思う」の合計値で、資料1・2に示した。

### 3. 1 子どもの体育に対する意識

「子どもの体育に対する意識」の傾向を整理したものが表1（資料1参照）である。

小学生にとっての体育とは、「好きだし楽しい教科（83.3%）」「がんばろうという意欲が出る教科（81.9%）」として位置づけ、「健康なからだをつくり、体力をつける（93.0%）」「いろいろなからだの動かし方ができるようにする（88.4%）」ことを目的とする認識が高い。また、体育授業の進められ方・行われ方は、「安全面に気を配って

表1 子どもの体育に対する意識

調査項目	順位	小学生	中学生	高校生
1. 位置づけ	①	好き	意欲	好き
	②	意欲	好き	意欲
2. 目的	①	健康・体力	運動技能	健康・体力
	②	身体動作	健康・体力	運動技能
3. 方法	①	安全面	安全面	集団規律
	②	集団規律	集団規律	仲間交流
4. 教師の存在	①	指導者	指導者	指導者
	②	演出家	支援者	演出家
5. 時間数	①	時間増	今のままで	今のままで

## 現代の子どもと教師の体育に対する意識調査

くれる (80.2%)」「集団のきまりを大切にしてくれる (79.3%)」と感じ、授業中の教師は、「技術やルールなどを教えてくれる指導者 (87.2%)」「授業をおもしろくするために工夫したり、雰囲気づくりをしてくれる演出家 (76.7%)」としてとらえている。体育の時間数は、「もっと時間数を増やしてほしい (55.4%)」が半数を超えている。

中学生にとっての体育とは、「がんばろうという意欲が出る教科 (70.9%)」「好きだし楽しい教科 (65.0%)」として位置づけ、「運動技能を身につける (87.5%)」「健康なからだをつくり、体力をつける (87.2%)」ことを目的とする認識が高い。また、体育授業の進められ方・行われ方は、小学生と同様に「安全面に気を配ってくれる (76.8%)」「集団のきまりを大切にしてくれる (75.4%)」と感じている。授業中の教師は、「技術やルールなどを教えてくれる指導者 (82.1%)」としてとらえる傾向が高く、次いで「困ったときや練習をしてくれるときに力をかしてくれる支援者 (59.1%)」としてとらえている。体育の時間数は、「今のままでよい (54.4%)」が半数を超えている。

高校生にとっての体育とは、「好きだし楽しい教科 (71.9%)」「がんばろうという意欲が出る教科 (71.1%)」として位置づけ、「健康なからだをつくり、体力をつける (84.2%)」「運動技能を身につける (79.8%)」ことを目的とする認識が高い。また、体育授業の進められ方・行われ方は、「集団のきまりを大切にしてくれる (68.4%)」「友だちとの交流を大切にしてくれる (68.1%)」

と感じ、授業中の教師は、「技術やルールなどを教えてくれる指導者 (69.0%)」「授業をおもしろくするために工夫したり、雰囲気づくりをしてくれる演出家 (58.7%)」としてとらえている。体育の時間数は、「今のままでいい (52.7%)」が半数を超えている。

### 3. 2 教師の体育に対する意識

「教師の体育に対する意識」の傾向を整理したものが表2 (資料2参照) である。

【体育の位置づけ】は、各校種共通して「好きだし楽しい教科 (幼稚園から順に 96.0%、99.5%、94.1%、88.6%、90.6%)」が最も高く、次いで、幼稚園・中学校・高等学校教師は「頑張ろうという意欲が出る教科 (順に 88.0%、85.0%、77.2%)」、小学校教師は「楽しくて待ち遠しい教科 (97.6%)」、盲・聾・養護学校教師は「学校の中で大切な教科 (80.4%)」としてとらえている。

【体育の必要性】は、全校種にわたって「とても必要だと思う (幼稚園から順に 62.1%、74.5%、68.1%、74.7%、65.8%)」とその存在を認めている (資料4参照)。

【体育の目的】は、全校種にわたって「からだを動かすことの喜びやおもしろさを育てる (幼稚園から順に 96.4%、97.6%、95.1%、93.4%、93.8%)」ことが最も多く、次いで「健康の維持増進や体力を養う (幼稚園から順に 94.8%、93.8%、88.9%、91.0%、92.5%)」が続いている。

【体育の方法】は、全校種にわたって「安全面への配慮を大切にしている (幼稚園から順に

表2 教師の体育に対する意識

調査項目	順位	幼稚園教師	小学校教師	中学校教師	高等学校教師	盲・聾・養護学校教師
1. 位置づけ	①	好き	好き	好き	好き	好き
	②	意欲	楽しい	意欲	意欲	大切
2. 必要性	①	とても必要	とても必要	とても必要	とても必要	とても必要
3. 目的	①	喜び・おもしろさ	喜び・おもしろさ	喜び・おもしろさ	喜び・おもしろさ	喜び・おもしろさ
	②	健康・体力	健康・体力	健康・体力	健康・体力	健康・体力
4. 方法	①	安全面	安全面	安全面	安全面	安全面
	②	仲間交流	仲間交流	集団規律	集団規律	仲間交流
5. 選択基準	①	共感基準	超越基準	超越基準	超越基準	共感基準
6. 教師の存在	①	支援者	支援者	指導者	指導者	支援者
7. 「学び」と「遊び」の関係	①	遊び目的	遊び手段	遊び手段	遊び手段	遊び手段
8. 時間数	①	今のままで	今のままで	今のままで	今のままで	今のままで

96.0%、99.0%、95.6%、93.1%、93.7%)」ことが最も多く、次いで幼稚園、小学校、盲・聾・養護学校教師は「仲間との交流を大切にしている(順に91.8%、93.7%、82.7%)」、中学校、高等学校教師は「集団規律の確立を大切にしている(順に89.8%、90.4%)」と続く。

〔学習内容の基準〕は、幼稚園、盲・聾・養護学校教師は「子どもが夢中・没頭するかどうかという共感基準<sup>3)</sup>(順に62.4%、58.6%)」が高く、小学校、中学校、高等学校教師は「子どもが上達・向上するかどうかという超越基準<sup>4)</sup>(順に62.5%、50.8%、50.4%)」が高い傾向が見られる。

体育にかかわる〔教師の存在〕は、幼稚園、小学校、盲・聾・養護学校教師は「アドバイザー、カウンセラーなど、支援者的な役割(順に57.1%、82.6%、58.8%)」として、中学校、高等学校では「コーチ、インストラクターなど、指導者的な役割(順に71.4%、74.5%)」として位置づく傾向がある。

子どもにとっての〔学び〕と〔遊び〕の関係について、幼稚園教師は「子どもが意欲的に『学んでいる』姿は、夢中になって『遊んでいる』姿

に通ずるものがあるため切り離さず一体のものとして考えている(96.0%)」傾向が高い。それ以外の校種は「『学ぶ』意欲を高めるために、積極的に『遊び』の要素や感覚を取り入れるようにしている(小学校から順に92.3%、78.3%、79.0%、92.5%)」という傾向が高い。

現在の〔体育の時間数〕については、全校種にわたって「今のままでいい(幼稚園から順に81.0%、72.9%、74.5%、70.9%、73.4%)」という傾向が高い。

### 3. 3 子どもと教師の体育に対する意識の比較

ここでは、「子どもと教師の体育に対する意識を比較」したものを表3・4・5・6と図1・2・3・4に示した。子どもと教師の体育に対する意識は、必ずしも一致していない。特に、ズレが大きいものは以下のおりである。なお、数値は、「とてもそう思う」と「わりとそう思う」の合計値で、「子どもの値」と「教師の値」の差を示す。

〔体育の位置づけ〕では、中学校の「楽しくて待ち遠しい教科(-37.1%)」「好きだし楽しい教科(-29.1%)」である(表3、図1-2)。つまり、

表3 子どもと教師の体育の意識に対する比較〔体育の位置づけ〕

1. 体育はどのような教科か	小・児童	小・教師	中・生徒	中・教師	高・生徒	高・教師
1 好きだし楽しい教科	83.3	99.5	65.0	94.1	71.9	88.6
2 楽しくて待ち遠しい教科	75.6	97.6	46.9	84.0	56.6	71.7
3 学校の勉強の中で大切な教科	79.8	78.0	50.1	70.7	52.8	71.5
4 将来役に立ちそうな教科	77.5	73.3	55.1	72.2	50.3	67.1
5 できるかできないか不安や心配になる教科	43.4	57.7	51.1	61.1	43.8	56.4
6 がんばろうという意欲が出る教科	81.9	95.7	70.9	85.0	71.1	77.2

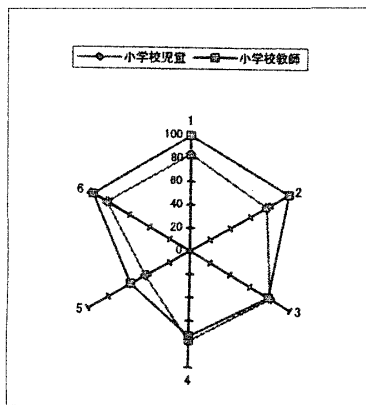


図1-1 小学生と小学校教師の比較

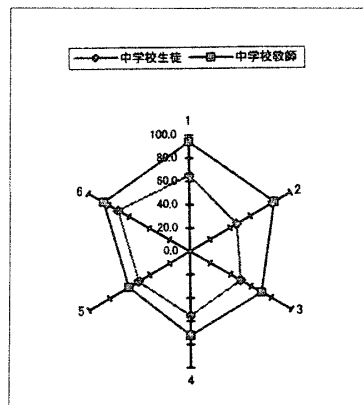


図1-2 中学生と中学校教師の比較

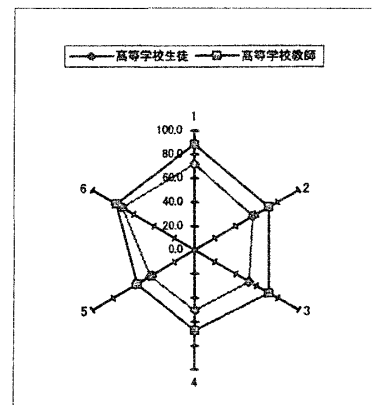


図1-3 高校生と高等学校教師の比較

(単位: パーセント)

表4 子どもと教師の体育に対する意識の比較 [体育の目的]

2. 体育の目的はどのようなものであると思うか	小・児童	小・教師	中・生徒	中・教師	高・生徒	高・教師
1 健康なからだをつくり、体力をつける	93.0	93.8	87.2	88.9	84.2	91.0
2 ストレスの発散、気晴らしをする	42.8	69.8	48.0	77.4	75.7	81.5
3 運動技能を身につける	85.5	89.5	87.5	77.5	79.8	75.4
4 仲間づくりをする	62.5	91.4	59.0	86.8	74.0	79.6
5 協力したり、助け合うことのできる力を身につける	80.0	92.4	63.6	86.3	68.5	81.5
6 がんばってやり通す精神力をきたえる	83.4	79.4	76.0	79.1	63.3	76.1
7 競技のルールなど、体育的な知識を身につける	54.0	86.1	80.1	87.4	70.5	87.1
8 将来の生活で生かせるような運動の仕方を身につける	73.1	66.3	55.2	67.6	47.4	65.2
9 いろいろなからだの動かし方ができるようにする	88.4	93.3	74.9	83.8	69.5	85.3
10 遊び心を身につける	64.9	79.9	51.9	64.7	67.9	70.8
11 からだを動かすことの喜びやおもしろさを身につける	77.0	97.6	65.8	95.1	75.6	93.4

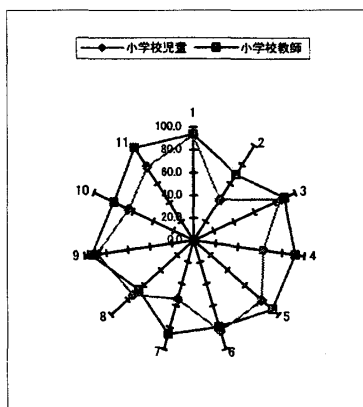


図2-1 小学生と小学校教師の比較

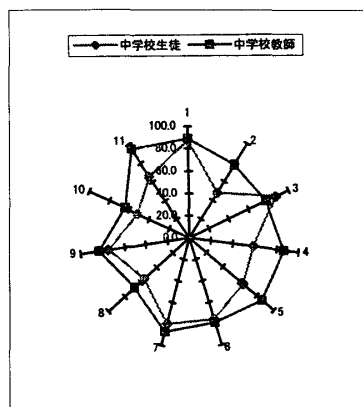
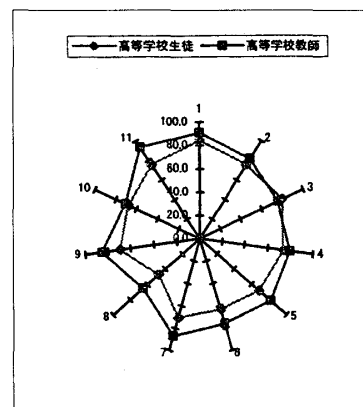


図2-2 中学生と中学校教師の比較



(単位: パーセント)

図2-3 高校生と高等学校教師の比較

中学生は教師が思うほど、体育を「楽しくて待ち遠しい教科」「好きだし楽しい教科」ととらえていないことがわかる。

[体育の目的] では、小学校、中学校の「ストレス発散、気晴らしをする (-27.0%、-29.4%)」「仲間づくりをする (-28.9%、-27.8%)」、小学校の「競技のルールなど、体育的な知識を身につける (-32.1%)」、中学校の「からだを動かすことの喜びやおもしろさを身につける (-29.3%)」である(表4、図2-1、図2-2)。小学生、中学生と教師との間に、[体育の目的] に対する認識のズレが生じていることがうかがえる。

[体育の方法] では、中学校の「友だちとの交流を大切にしてくれる (-31.7%)」、高等学校では「安全面に気を配ってくれる (-29.2%)」である。いずれも教師の値が高い(表5、図3-2、図3-3)。この項目では、小学校以外の校種にお

けるズレが生じている。

[教師の存在] では、小学校の「技術やルールなどを教えてくれる (+26.4%)」と「いっしょに運動したり、運動に誘ってくれる (+29.6%)」である(表6、図4-1)。これは、小学校だけに見られたズレである。小学校教師は自らの存在を支援者的な役割と位置づけている。小学生は、それ自体も認めているが、ほかにも指導者や同伴者的な役割も果たしていると回答している。

「子どもと教師の体育に対する意識の比較」を全体的に見たとき、特に中学校において両者の間にズレ([体育の位置づけ][体育の目的][体育の方法])が広がっている傾向がうかがえる。

### 3. 4 各校種別に見た体育に対する意識

まず、どの校種にも共通している傾向としてあげられることは、体育は「好きだし楽しい教科」

表5 子どもと教師の体育の意識に対する比較 [体育の方法]

3. 体育授業の進められ方・行われ方どうか	小・児童	小・教師	中・生徒	中・教師	高・生徒	高・教師
1 十分に運動する時間をとってくれる	70.4	89.4	69.1	78.1	63.8	74.3
2 ていねいに教えてくれる	74.7	92.3	72.4	71.3	54.5	67.5
3 やる気を起こさせてくれる	72.4	80.8	53.9	64.7	51.6	60.6
4 安全面に気を配ってくれる	80.2	99.0	76.8	95.6	63.9	93.1
5 集団のきまりを大切にしてくれる	79.3	87.0	75.4	89.8	68.4	90.4
6 友だちとの交流を大切にしてくれる	75.6	93.7	56.0	87.7	68.1	80.1
7 いろいろな面から評価してくれる	77.9	69.2	62.0	59.1	49.1	57.0

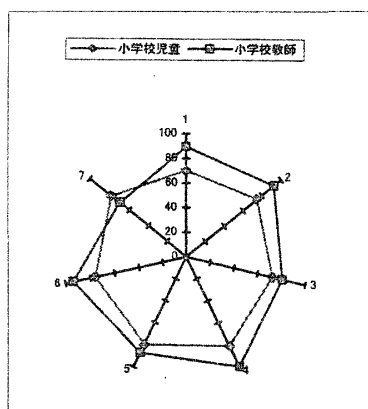


図3-1 小学生と小学校教師の比較

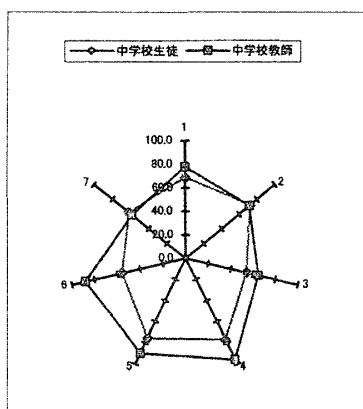


図3-2 中学生と中学校教師の比較

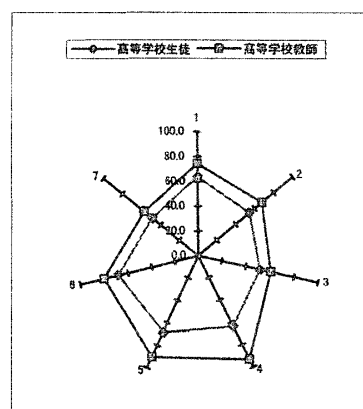


図3-3 高校生と高等学校教師の比較

(単位: パーセント)

表6 子どもと教師の体育の意識に対する比較 [教師の存在]

4. 体育の先生は授業中どうしてくれるか	小・児童	小・教師	中・生徒	中・教師	高・生徒	高・教師
1 技術やルールなどを教えてくれる	87.2	60.8	82.1	71.4	69.0	74.5
2 授業をおもしろくするために工夫したり、雰囲気づくりをしてくれる	76.7	62.2	49.1	53.4	58.7	45.5
3 困ったときや練習をしてくれるとき力をかしてくれる	74.6	82.6	59.1	70.9	55.4	69.2
4 いっしょに運動したり、運動にさそってくれる	59.3	29.7	37.8	25.6	38.9	27.8

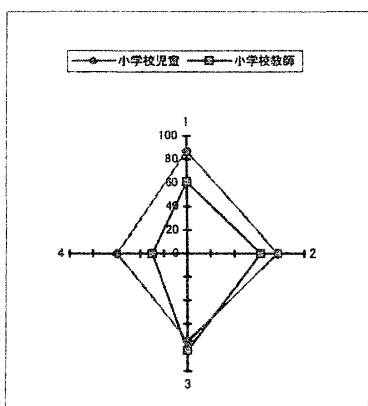


図4-1 小学生と小学校教師の比較

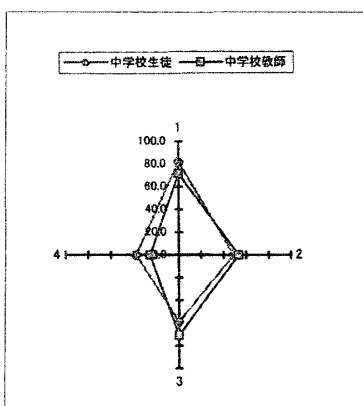


図4-2 中学生と中学校教師の比較

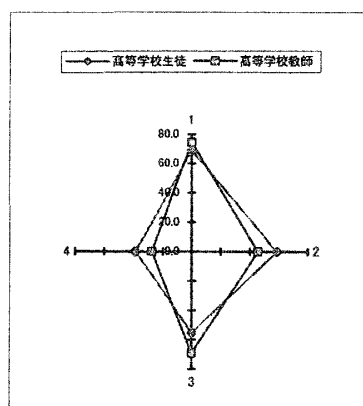


図4-3 高校生と高等学校教師の比較

(単位: パーセント)

であり、「健康の維持増進・体力の養成」をすることが目的であるととらえていることである。

次に、小学校・中学校・高等学校に共通している傾向として、小学校においては子どもと教師の間に多少のズレは見られるものの、次のような傾向が見られる。

- ・体育は、「がんばろうという意欲が出る」教科である。
  - ・体育の目的について、子どもは「運動技能を習得」すること、教師は「からだを動かすことの喜びやおもしろさを育てる」ことである。
  - ・体育授業は、「安全面への配慮、集団規律の確立」を大切にしながら展開されている。
  - ・体育の教師は、「指導者的な役割」として位置づいている。
  - ・体育の学習内容は、「超越基準」から選択し、「遊びは学びの手段」としてとらえている。
- 最後に、幼稚園、盲・聾・養護学校の傾向をとりあげる。
- ・両校種に共通している傾向は、[体育の方法]と[学習内容の基準]、[教師の存在]である。体育は、「安全面への配慮」「仲間との交流」を大切にしながら展開され、「共感基準」で学習内容を選択している。また、教師は「支援者」として位置づいている。
  - ・両校種のちがいとしてあげられる傾向は、[体育の位置づけ]と「[学び]と「遊び」の関係」である。前者について、幼稚園は「意欲が出る教科」、盲・聾・養護学校は「学校の勉強の中で必要な教科」として位置づいている。後者について、幼稚園は「遊びは学びそのもの」、盲・聾・養護学校は「遊びは学びの手段」としてとらえている。

#### 4. おわりに

本調査は、三重県内の子ども（小学4年生以上、中学生、高校生）1,707人と教師（幼稚園、小学校、中学校、高等学校、盲・聾・養護学校）3,368人を対象に、「体育」に対する意識調査を行った。

その結果、「体育」は、現代の子どもたちと教師たちに、概ね好意的に受け止められている傾向を示した。しかし、子どもと教師の「体育」に対する意識を比較したとき、必ずしも一致していないことが明らかにされた。特に中学校においては、両者の間に認識のズレ（[体育の位置づけ] [体育

の目的] [体育の方法]）が広がっていることを示した。

今後は、本調査で得られた結果を基礎資料としながら、これからの「体育」の存在意義とその問題性について検討していきたい。

#### 付 記

本調査は、第42回全国学校体育研究大会三重県準備委員会研究推進委員会の協力を得ながら進められた。記して、感謝の意を表したい。

#### 注

- 1) 例えば、『朝日新聞朝刊〈声〉、1996.6.7』「体育が苦手な悩み分かって（札幌市高校生16歳）」があげられる。その中には、「苦しみで満ちた体育をする理由、だれが答えてくれるのですか？体育教師はうまい人ばかりほめないで、熱血せず、体育が苦手な人の気持ちを考えてください!!」と、自らの体験を通して、体育の存在意義を問うている。
- 2) 例えば、さくらももこ：『ちびまる子ちゃん（1）、集英社、1987、p.47』「体育の授業のこと」があげられる。その中には「一体、あんなにも私に恥をかかせた体育の授業は人間形成において学校教育の中でとり入れなければならないほどの重要な役割をどのへんに秘めているのであろうか。ギモンである。」と、体育が学校教育カリキュラムの教科として位置づいている根拠について問うている。
- 3) 朝日新聞社：『朝日新聞 WEEKLY AERA 01.3.5、pp.83-85』「体育がこわい」があげられる。その中には、20～30歳の学校体育カリキュラムを終えた11人の事例（体育にまつわる苦い経験）が中心に編集されている。
- 4) 作田啓一（『生成の社会学をめざして』有斐閣、1993）は、「人々は行為を行うときに、何をするかという目標（価値）を選択し、なぜそれを選ぶのかという選択規準（価値規準・価値観）を持つ」と説明している。そして、「①有用規準（有用志向）…〈手段としての有効性〉の見地から可能な目標の中で特定のものが選ばれる。②原則規準（原則志向・超越志向）…目標の選択は〈原則との適合性〉の見地から行われる。③共感規準（共感志向）…行為者が共感可能な目標の中から〈共感の容易性〉で目標

が選ばれる」の3つの選択規準を導き出している。本調査では、これをもとに「①有用基準…子どもの将来にとって役に立つかどうかという基準（設問5-1）、②超越基準…子どもが上達・

向上するかどうかという基準（設問5-2）、③子どもが夢中・没頭するかどうかという基準（設問5-3）」の調査項目を作成した。

資料1 子どもの体育に対する意識①（「とてもそう思う」と「わりとそう思う」の合計値）

（単位：パーセント）

	小学生	中学生	高校生
1. 体育はどのような教科か			
①一番得意な教科	68.2	49.9	44.8
②成績がよいと一番うれしい教科	70.2	59.0	49.3
③好きだし楽しい教科	83.3	65.0	71.9
④楽しくて待ち遠しい教科	75.6	46.9	56.6
⑤学校の勉強の中で大切な教科	79.8	50.1	52.8
⑥将来役に立ちそうな教科	77.5	55.1	50.3
⑦できるかできないか不安や心配になる教科	43.4	51.1	43.8
⑧がんばろうという意欲が出る教科	81.9	70.9	71.1
⑨学校の勉強の中で必要な教科	81.5	63.1	68.2
⑩学んでよかったと思える教科	82.0	63.8	67.0
2. 体育の目的はどのようなものであると思うか			
①健康なからだをつくり、体力をつける	93.0	87.2	84.2
②ストレスの発散、気晴らしをする	42.8	48.0	75.7
③運動技能を身につける	85.5	87.5	79.8
④仲間づくりをする	62.5	59.0	74.0
⑤協力したり、助け合うことのできる力を身につける	80.0	63.6	68.5
⑥がんばってやり通す精神力をきたえる	83.4	76.0	63.3
⑦競技のルールなど、体育的な知識を身につける	54.0	80.1	70.5
⑧将来の生活で生かせるような運動の仕方を身につける	73.1	55.2	47.4
⑨いろいろなからだの動かし方ができるようにする	88.4	74.9	69.5
⑩遊び心を身につける	64.9	51.9	67.9
⑪からだを動かすことの喜びやおもしろさを身につける	77.0	65.8	75.6
3. 体育授業の進められ方・行われ方はどうか			
①十分に運動する時間をとってくれる	70.4	69.1	63.8
②ていねいに教えてくれる	74.7	72.4	54.5
③やる気を起こさせてくれる	72.4	53.9	51.6
④安全面に気を配ってくれる	80.2	76.8	63.9
⑤集団のきまりを大切にしてくれる	79.3	75.4	68.4
⑥友だちとの交流を大切にしてくれる	75.6	56.0	68.1
⑦いろいろな面から評価してくれる	77.9	62.0	49.1
4. 体育の先生は授業中どうしてくれるか			
①技術やルールなどを教えてくれる	87.2	82.1	69.0
②授業をおもしろくするために工夫したり、雰囲気づくりをしてくれる	76.7	49.1	58.7
③困ったときや練習をしてくれるとき力をかしてくる	74.6	59.1	55.4
④いっしょに運動したり、運動にさそってくれる	59.3	37.8	38.9
5. 体育の時間数について、どう思うか	時間増	今のままで	今のままで
	55.4	54.4	52.7



現代の子どもと教師の体育に対する意識調査

資料2 教師の体育に対する意識①（「とてもそう思う」と「わりとそう思う」の合計値）

（単位：パーセント）

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	盲・聾・養護
1. 体育を子どもは、どのようなものと考えていると思うか					
1 好きだし楽しいもの	96.0	99.5	94.1	88.6	90.6
2 楽しくて待ち遠しいもの	87.0	97.6	84.0	71.7	72.3
3 学校の勉強の中で大切なもの	87.4	78.0	70.7	71.5	80.4
4 将来役に立ちそうなもの	79.4	73.3	72.2	67.1	67.6
5 できるかできないか不安や心配になるもの	61.6	57.7	61.1	56.4	46.1
6 頑張ろうという意欲が出るもの	88.0	95.7	85.0	77.2	77.9
2. 体育は学校（園）教育において、必要だと思うか	96.7	98.1	97.8	98.0	97.3
3. 体育の目的はどのようなものであると思うか					
1 健康の維持増進や体力を養う	94.8	93.8	88.9	91.0	92.5
2 ストレスの発散、気晴らしをする	76.5	69.8	77.4	81.5	80.8
3 運動技能を身につける	76.2	89.5	77.5	75.4	64.4
4 仲間づくりをする	86.5	91.4	86.8	79.6	77.8
5 協力したり、助け合いなどの社会性を身につける	86.2	92.4	86.3	81.5	74.4
6 頑張ったりやり通す精神力をきたえる	87.2	79.4	79.1	76.1	70.7
7 競技・遊びのルールなど、体育的な知識を身につける	86.9	86.1	87.4	87.1	80.8
8 将来の生活で生かせるような運動の仕方を身につける	52.7	66.3	67.6	65.0	52.9
9 身体活動経験を拡大する	87.0	93.3	83.8	85.3	92.0
10 遊び心を育てる	88.0	79.9	64.7	70.8	80.9
11 からだを動かすことの喜びやおもしろさを育てる	96.4	97.6	95.1	93.4	93.8
4. 体育の進め方・行い方は、どのようなものであると思うか					
1 運動量の確保を大切にしている	63.9	89.4	78.1	74.3	73.2
2 個人差への対応を大切にしている	81.9	92.3	71.3	67.5	81.8
3 内発的な動機づけを大切にしている	76.1	80.8	64.7	60.6	70.2
4 安全面への配慮を大切にしている	96.0	99.0	95.6	93.1	93.7
5 集団規律の確立を大切にしている	80.6	87.0	89.8	90.4	71.8
6 仲間との交流を大切にしている	91.8	93.7	87.7	80.1	82.7
7 多様な評価基準の設定をしている	52.1	69.2	59.1	57.0	63.0
5. 体育の学習内容は、どのような基準で決められていると思うか					
1 子どもの将来にとって役に立つかどうかという基準	28.1	45.2	44.3	44.5	37.1
2 子どもが上達・向上するかどうかという基準	41.8	62.5	50.8	50.4	45.4
3 子どもが夢中・没頭するかどうかという基準	62.4	56.9	50.7	46.6	58.6
6. 体育にかかわる教師は、どのように位置づいていると思うか					
1 コーチ、インストラクターなど、指導者的な役割	54.8	60.8	71.4	74.5	56.6
2 コーディネーター、ディレクターなど、演出家的な役割	31.2	62.2	53.4	45.5	51.3
3 アドバイザー、カウンセラーなど、支援者的な役割	57.1	82.6	70.9	69.2	58.8
4 パートナー、フレンドなど、同伴者的な役割	50.8	29.7	25.6	27.8	50.7
7. 子どもにとっての「学び」と「遊び」のかかわりについて、どう思うか					
1 「学び」と「遊び」は本質的に異なるものなので、切り離して考えている	12.3	22.2	32.8	32.6	17.7
2 「学ぶ」意欲を高めるために、積極的に「遊び」の要素や感覚を取り入れるようにしている	93.7	92.3	78.3	79.0	92.5
3 子どもが意欲的に「学んでいる」姿は、夢中になって「遊んでいる」姿に通ずるものがあるため、切り離さず一体のものとして考えている	96.0	85.6	72.4	78.3	88.7
8. 体育の時間数について、どのように考えているか	今のままで	今のままで	今のままで	今のままで	今のままで
	81.0	72.9	74.5	70.9	73.4

資料3 子どもの体育に対する意識②

(単位: パーセント)

	小学生				中学生				高校生			
	とても	わりと	あまり	ぜんぜん	とても	わりと	あまり	ぜんぜん	とても	わりと	あまり	ぜんぜん
1. 体育はどのような教科か												
①一番得意な教科	29.2	39.0	25.0	6.7	14.3	35.6	34.5	15.6	13.7	31.1	35.7	19.6
②成績がよいと一番うれしい教科	38.7	31.5	25.1	4.6	19.9	39.1	31.6	9.4	15.7	33.6	41.7	9.1
③好きだし楽しい教科	53.5	29.8	13.7	3.1	28.7	36.3	25.6	9.4	36.6	35.3	22.6	5.5
④楽しくて待ち遠しい教科	41.2	34.4	19.0	5.4	16.0	30.9	38.4	14.7	20.7	35.9	32.6	10.8
⑤学校の勉強の中で大切な教科	35.1	44.7	17.5	2.7	12.1	38.0	40.8	9.2	13.5	39.3	37.1	10.2
⑥将来役に立ちそうな教科	32.0	45.5	19.1	3.5	14.8	40.3	34.9	10.1	11.5	38.8	41.9	7.8
⑦できるかできないか不安や心配になる教科	11.4	32.0	31.2	25.4	14.5	36.6	32.0	16.9	11.3	32.5	38.2	18.1
⑧がんばろうという意欲が出る教科	44.0	37.9	16.0	2.1	29.3	41.6	23.0	6.0	28.5	42.6	23.6	5.3
⑨学校の勉強の中で必要な教科	41.3	40.2	16.8	1.7	21.0	42.1	30.4	6.6	23.7	44.5	24.1	7.7
⑩学んでよかったと思える教科	43.7	38.3	15.0	3.1	17.9	45.9	29.7	6.5	19.6	47.4	27.8	5.3
2. 体育の目的はどのようなものだと思うか												
①健康なからだをつくり、体力をつける	63.1	29.9	6.0	1.0	43.0	44.2	10.1	2.8	42.2	42.0	12.4	3.3
②ストレスの発散、気晴らしをする	16.2	26.6	40.5	16.6	17.1	30.9	39.3	12.8	37.2	38.5	17.8	6.5
③運動技能を身につける	47.1	38.4	12.0	2.5	41.7	45.8	9.4	3.0	30.7	49.1	16.0	4.2
④仲間づくりをする	26.7	35.8	27.9	9.6	15.4	43.6	32.6	8.4	23.7	50.3	19.7	6.2
⑤協力したり、助け合うことのできる力を身につける	36.6	43.4	16.8	3.3	17.4	46.2	28.8	7.6	22.1	46.4	24.6	6.9
⑥がんばってやり通す精神力をきたえる	43.6	39.8	15.3	1.4	29.8	46.2	19.9	4.1	22.3	41.0	29.6	7.1
⑦競技のルールなど、体育的な知識を身につける	38.4	45.6	14.7	1.4	30.9	49.2	16.4	3.5	20.7	49.8	26.6	2.9
⑧将来の生活で生かせるような運動の仕方を身につける	30.4	42.7	23.0	3.9	16.2	39.0	35.2	9.6	10.0	37.4	42.9	9.8
⑨いろいろなからだの動かし方ができるようにする	47.4	41.0	9.2	2.3	27.7	47.2	20.9	4.2	17.9	51.6	25.6	5.0
⑩遊び心を身につける	28.0	36.9	28.6	6.6	18.9	33.0	34.9	13.1	22.9	45.0	25.3	6.8
⑪からだを動かすことの喜びやおもしろさを身につける	41.4	35.6	19.1	3.9	26.5	39.3	25.4	8.8	31.9	43.7	18.8	5.7
3. 体育授業の進められ方・行われ方かどうか												
①十分に運動する時間をとってくれる	23.9	46.5	25.3	4.2	19.7	49.4	25.6	5.3	13.6	50.2	31.2	5.0
②でいいに教えてくれる	30.7	44.0	21.4	3.9	19.4	53.0	22.2	5.4	10.2	44.3	38.0	7.5
③やる気を起こさせてくれる	35.6	36.8	22.9	4.6	18.5	35.4	35.8	10.4	11.8	39.8	41.2	7.2
④安全面に気を配ってくれる	35.1	45.1	17.7	2.1	26.7	50.1	18.3	4.8	13.8	50.1	31.6	4.5
⑤集団のきまりを大切にしてくれる	29.0	50.3	18.0	2.7	27.0	48.8	19.4	4.8	18.6	49.8	28.1	3.6
⑥友だちとの交流を大切にしてくれる	37.3	38.3	21.2	3.3	19.9	36.1	34.9	9.1	16.4	51.7	27.0	4.9
⑦いろいろな面から評価してくれる	27.0	50.9	18.1	4.0	19.5	42.5	30.9	7.1	10.6	38.5	41.4	9.5
4. 体育の先生は授業中どうしてくれるか												
①技術やルールなどを教えてくれる	40.1	47.1	11.0	1.7	27.3	54.8	14.2	3.7	15.5	53.5	25.4	5.6
②授業をおもしろくするために工夫したり、雰囲気づくりをしてくれる	38.0	38.7	19.5	3.9	17.6	31.5	35.7	15.2	20.6	38.1	32.7	8.6
③困ったときや練習をしてくれるとき力をかしてくれる	32.0	42.6	21.4	4.0	16.9	42.2	31.2	9.7	12.9	42.5	36.4	8.1
④いっしょに運動したり、運動にさそってくれる	20.8	38.5	30.6	10.0	7.9	29.9	41.9	20.2	10.0	28.9	45.5	15.7
5. 体育の時間数について、どう思うか	もっと時間増	今のままで	もっと時間減		もっと時間増	今のままで	もっと時間減		もっと時間増	今のままで	もっと時間減	
	55.4	39.8	4.8		30.1	54.4	15.5		37.0	52.7	10.3	

資料4 教師の体育に対する意識②

(単位: パーセント)

	幼稚園教師				小学校教師				中学校教師				高等学校教師				盲・聾・養護学校教師			
	とても	わりと	あまり	ぜんぜん	とても	わりと	あまり	ぜんぜん	とても	わりと	あまり	ぜんぜん	とても	わりと	あまり	ぜんぜん	とても	わりと	あまり	ぜんぜん
1. 体育を子どもは、どのようなものと考えていると思うか																				
①好きだし楽しいもの	39.1	56.9	4.0	0.0	44.2	55.3	0.5	0.0	19.3	74.8	5.9	0.0	19.0	69.6	10.8	0.6	16.9	73.7	9.2	0.2
②楽しくて待ち遠しいもの	18.4	68.6	12.8	0.1	32.2	65.4	2.4	0.0	11.0	73.0	15.4	0.6	10.8	60.9	26.4	2.0	8.5	63.8	26.9	0.8
③学校の勉強の中で大切なもの	36.7	50.7	11.7	0.9	24.4	53.6	22.0	0.0	24.1	46.6	28.2	1.1	26.6	44.9	26.6	1.8	29.2	51.2	17.0	2.6
④将来役に立ちそうなもの	25.6	53.8	18.9	1.7	14.4	58.9	25.8	1.0	20.8	51.4	25.9	1.9	20.0	47.1	29.7	3.2	18.4	49.2	28.7	3.7
⑤できるかできないか不安や心配になるもの	10.2	51.4	36.8	1.6	6.7	51.0	41.3	1.0	9.2	51.9	37.3	1.6	7.7	48.7	41.0	2.7	6.4	39.7	49.0	4.9
⑥頑張ろうという意欲が出るもの	22.7	65.3	11.8	0.2	22.1	73.6	4.3	0.0	11.4	73.6	14.7	0.3	12.3	64.9	21.6	1.3	9.6	68.3	21.3	0.8
2. 体育は学校(園)教育において、必要だと思うか	62.1	34.6	2.9	0.4	74.5	23.6	1.4	0.5	68.1	29.7	1.7	0.6	74.7	23.3	2.0	0.0	65.8	31.5	2.3	0.5
3. 体育の目的はどのようなものであると思うか																				
①健康の維持増進や体力を養う	52.8	42.0	4.9	0.2	44.0	49.8	6.2	0.0	49.3	39.6	10.8	0.3	53.8	37.2	8.9	0.1	52.4	40.1	7.1	0.3
②ストレスの発散、気晴らしをする	23.7	52.8	22.2	1.3	19.6	50.2	25.4	4.8	22.8	54.6	20.4	2.2	28.4	53.1	16.6	2.0	26.2	54.6	18.7	0.5
③運動技能を身につける	23.9	52.3	23.2	0.6	22.5	67.0	10.5	0.0	20.9	56.6	21.4	1.1	20.9	54.5	24.0	0.6	13.3	51.1	33.5	2.1
④仲間づくりをする	30.0	56.5	12.9	0.6	32.5	58.9	8.6	0.0	29.8	57.0	13.2	0.0	26.6	53.0	19.0	1.4	20.2	57.6	21.4	0.9
⑤協力したり、助け合いなどの社会性を身につける	31.1	55.1	13.5	0.4	33.5	58.9	7.7	0.0	31.0	55.3	13.7	0.0	30.9	50.6	17.5	1.0	19.2	55.2	24.3	1.4
⑥頑張ったりやり通す精神力をきたえる	39.1	48.1	12.6	0.3	20.1	59.3	19.1	1.4	24.5	54.6	19.1	1.9	25.8	50.3	22.3	1.7	17.8	52.9	27.5	1.8
⑦競技・遊びのルールなど、体育的な知識を身につける	31.8	55.1	12.7	0.4	20.7	65.4	13.0	1.0	27.4	60.0	11.2	1.4	27.7	59.4	12.0	1.0	18.2	62.6	18.0	1.2
⑧将来の生活で生かせるような運動の仕方を身につける	9.4	43.3	45.4	2.0	19.2	47.1	33.7	0.0	16.5	51.1	30.5	1.9	15.2	50.0	32.7	2.1	12.9	40.0	42.7	4.4
⑨身体活動経験を拡大する	28.2	58.8	12.7	0.3	31.1	62.2	6.7	0.0	30.7	53.1	14.8	1.3	26.9	58.4	13.9	0.7	33.3	58.7	7.6	0.5
⑩遊び心を育てる	41.8	46.2	11.8	0.2	23.0	56.9	19.6	0.5	16.9	47.8	32.8	2.4	19.8	51.0	27.2	2.0	24.2	56.7	18.3	0.8
⑪からだを動かすことの喜びやおもしろさを育てる	61.9	34.5	3.4	0.1	56.9	40.7	2.4	0.0	47.0	48.1	4.7	0.3	39.8	53.6	6.5	0.1	46.3	47.5	5.9	0.3
4. 体育の進め方・行い方は、どのようなものであると思うか																				
①運動量の確保を大切にしている	12.3	51.6	34.5	1.7	29.3	60.1	10.6	0.0	20.0	58.1	21.6	0.3	18.7	55.6	24.6	1.1	19.0	54.2	24.3	2.6
②個人差への対応を大切にしている	41.0	40.9	16.2	1.8	31.7	60.6	7.7	0.0	16.2	55.1	27.7	1.1	17.4	50.1	29.4	3.1	32.4	49.4	17.0	1.2
③内発的な動機づけを大切にしている	21.9	54.2	22.6	1.3	15.9	64.9	18.8	0.5	13.6	51.1	34.2	1.1	13.1	47.5	36.8	2.7	14.7	55.5	27.7	2.1
④安全面への配慮を大切にしている	59.9	36.1	3.7	0.2	57.2	41.8	1.0	0.0	41.9	53.7	4.4	0.0	48.2	44.9	6.6	0.3	49.9	43.8	5.6	0.6
⑤集団規律の確立を大切にしている	23.7	56.9	19.0	0.4	24.0	63.0	13.0	0.0	36.8	53.0	9.9	0.3	40.3	50.1	9.4	0.3	13.4	58.4	26.0	2.3
⑥仲間との交流を大切にしている	43.0	48.8	7.9	0.2	38.9	54.8	6.3	0.0	27.3	60.4	11.8	0.5	26.5	53.6	19.0	0.8	20.2	62.5	16.5	0.8
⑦多様な評価基準の設定をしている	13.2	38.9	40.4	7.5	11.5	57.7	30.8	0.0	9.4	49.7	39.3	1.6	14.6	42.4	39.8	3.2	18.7	44.3	33.6	3.3
5. 体育の学習内容は、どのような基準で決められていると思うか																				
①子どもの将来にとって役に立つかどうかという基準	4.1	24.0	63.3	8.5	7.2	38.0	51.4	3.4	5.6	38.7	49.9	5.9	8.1	36.4	50.4	5.1	6.7	30.4	56.3	6.5
②子どもが上達・向上するかどうかという基準	4.4	37.7	52.0	6.0	1.9	60.6	37.0	0.5	6.4	44.4	46.0	3.2	5.9	44.5	45.9	3.6	4.4	41.0	48.6	5.9
③子どもが夢中・没頭するかどうかという基準	13.5	48.9	34.7	2.8	8.1	48.8	41.6	1.4	7.8	42.9	46.6	2.7	6.6	40.0	50.0	3.4	9.4	49.2	37.8	3.6
6. 体育にかかわる教師は、どのように位置づいていると思うか																				
①コーチ、インストラクターなど、指導者的な役割	13.6	41.2	38.2	7.0	9.1	51.7	32.5	6.7	20.3	51.1	25.4	3.2	23.5	51.0	22.1	3.5	12.4	44.2	37.9	5.5
②コーディネーター、ディレクターなど、演出家的な役割	4.3	26.9	57.2	11.6	7.2	55.0	31.6	6.2	11.6	41.8	41.2	5.4	7.8	37.7	47.8	6.7	8.9	42.4	42.5	6.3
③アドバイザー、カウンセラーなど、支援者的な役割	10.9	46.2	36.7	6.2	20.3	62.3	12.6	4.8	15.6	55.3	26.1	3.0	15.6	53.6	27.6	3.2	12.2	46.6	35.7	5.5
④パートナー、フレンドなど、同伴者的な役割	10.1	40.7	40.5	8.8	2.4	27.3	59.8	10.5	3.8	21.8	61.6	12.9	3.4	24.4	59.2	13.0	8.7	42.0	41.9	7.5
7. 子どもにとっての「学び」と「遊び」のかかわりについて、どう思うか																				
①「学び」と「遊び」は本質的に異なるものなので、切り離して考えている	4.1	8.2	42.5	45.2	5.3	16.9	58.9	18.8	6.0	26.8	54.6	12.6	8.9	23.7	51.3	16.2	5.2	12.5	52.2	30.1
②「学び」意欲を高めるために、積極的に「遊び」の要素や感覚を取り入れるようにしている	54.2	39.5	5.3	1.0	33.0	59.3	7.7	0.0	22.2	56.1	21.1	0.5	19.4	59.6	19.6	1.4	40.5	52.0	7.0	0.5
③子どもが意欲的に「学んでいる」姿は、夢中になって「遊んでいる」姿に通ずるものがあるため、切り離さず一体のものとして考えている	57.6	38.4	3.8	0.1	27.9	57.7	13.5	1.0	20.2	52.2	26.0	1.7	25.5	52.8	20.0	1.7	36.7	52.0	10.7	0.6
8. 体育の時間数について、どのように考えているか	もっと時間増	今のままで	もっと時間減		もっと時間増	今のままで	もっと時間減		もっと時間増	今のままで	もっと時間減		もっと時間増	今のままで	もっと時間減		もっと時間増	今のままで	もっと時間減	
	18.3	81.0	0.8		26.1	72.9	1.0		22.1	74.5	3.4		25.9	70.9	3.3		24.5	73.4	2.0	

現代の子どもと教師の体育に対する意識調査